

すげ笠と子どもを中心に据えた公民館活動

清水東公民館

1 清水東地区の概要

清水東地区は、福井市西部を流れる志津川と日野川の合流地点から南の丹生山地への入り口に位置している。点在する低い丘陵には弥生時代後期に造られた小羽山(おぼやま)古墳、古墳時代に造られた前方後円墳の御城山(おしろやま)古墳など数多くの遺跡が確認されている。

志津川と日野川に挟まれた低湿地で水害がひどく稲作にあまり頼れなかったため、ほとんどの町内ですげ笠作りを行ってきた。最盛期には15万個にも達し、国内だけではなく東南アジアにも輸出されていた。今では衰退し需要が見込めない状況となっている。失われつつあるすげ笠の伝統を守り、引き継いでいくため、「すげ笠の郷」としていろいろな取組を行っている。

平成18年2月1日に清水町が福井市と合併し、上天下町、下天下町、小羽町、三留町、清水杉谷町、田尻栃谷町、竹生町、清水町、和田町、ホープタウン田尻町の10町内が清水東地区として新たなスタートを切った。7年前に完成した公民館を拠点として、伝統を大切にする活動や、子どもに焦点を当てた活動を通じて、町内間の連携や住民間の交流を積極的に進めていく活動を目指している。

2 すげ笠を中心に据えたまちづくり

(1) すげ笠作りの伝統を守る

朝宮橋を渡り清水地区に入ると、すげ笠のモニュメントが目に入る。清水東地区の各集落は長年にわたって、すげ笠の生産地として、地域の伝統文化のシンボルとして、すげ笠を清水東地区のまちづくりに生かしてきている。

すげ笠作りは、江戸時代から、農家の冬の副業として盛んに作られ、大きな収入源になっていた。しかし、需要が減少したため、昭和初期に約400人いた職人は10人ほどにまで減少した。清水杉谷町では、1989年に「越前菅笠を守る会」を立ち上げ、伝統を守り続けている。

公民館では、すげ笠を作る後継者を育成するために、10回の講座を開催している。竹を使った骨組み作りやすげを縫い込んでいく作業に取り組んでいる。すげは、湿気がないとすぐに折れてしまうので、講座は、冬に開催されている。平成28年度は、15名が受講した。すげ笠作りには、かなりの技術が必要なため後継者になるためにはもうしばらくの研鑽が必要であるとのこと。

また、毎年清水東小学校では、5年生を対象に、すげ笠作りの体験教室を開催している。公民館が講師を選定し、小学校と日程等を調整して、講師を小学校に派遣している。講師は、児童に、竹で骨組みを作り、丁寧にすげを縫い込んでいく昔ながらの作り方を指導している。5年生は、すげ田でのすげの刈り取りやすげの日干しの作業も地域の方々で行い、清水東地区の伝統であるすげ笠を守る活動に取り組んでいる。



(2) すげの郷サマーフェスタ

毎年7月に、すげの郷サマーフェスタを開催している。実行委員会を立ち上げて、スタッフ150人以上で取り組んでいる。スタッフは、運営審議会委員、自治会長、自治会から推薦された公民館活動推進委員、過去に公民館活動に協力した公民館活動協力委員、各種団体・自主グループで構成されている。公民館活動推進委員と公民館活動協力委員は、清水東公民館独自の委員である。平成28年度には、7月23日(土)に開

催した。「すげ笠音頭」制作 30 周年と合併 10 周年を記念して、仙台市在住の民謡歌手の白井幸子氏を招いて「すげ笠総踊り」を行った。サマーフェスタは、午後 4 時から午後 8 時 30 分まで開催され、バザーコーナー、ゲームコーナー、展示販売、流しそうめん、紙風船宝探し、自主グループ発表など盛りだくさんな内容である。清水東地区には約 1800 人が住んでいるがこのフェスタには、500 人以上が参加している。住民の参加率の高い行事である。午後 7 時から始まる「すげ笠総踊り」は、幼児から年配の方までが参加して踊り、その様子は壮観で実に楽しそうである。

3 子どもを中心に据えた活動

公民館では、子ども未来部という部会があり、地区の育成会と協力して、子どもを対象にした活動が充実している。「こいのぼりウォーク」、「いかだ作りといかだで川下り」、「ウォークラリーとカレー大会」などである。スポーツ少年団に所属していない子どもを対象にした「東っ子自然たんけん隊」もある。

「こいのぼりウォーク」は、親子で田んぼ道を 20 分程度歩き、小羽ラブリバーで設置されているこいのぼりを画用紙に描き、周辺の草花を切り貼りして作品を仕上げしていくものである。昨年度は、親子で 85 名の参加があった。



「いかだ作りといかだで川下り」は、こいのぼりに使用した竹を再利用していかだを作り、ライフジャケットを着ていかだで川下りをするもの。小羽ラブリバーは、水門があるので水位を調整でき、また、水門で囲まれているため川に流されることがなく安全である。

子どもたちは、順番待ちをしている間に自転車を改良したいかだで遊んだり、川に飛び込んだりして楽

しんでいた。子どもに人気の行事で、清水東小学校の半分の子どもが参加した。



「東っ子自然たんけん隊」では、年間 14 回程度の活動があり、多くの子どもが参加して楽しい思い出を作っている。毎年 9 月に 1 泊 2 日で親子キャンプを行っている。近くの SST ランドでキャンプを自分たちで設営し、虫除けスプレーを手作りし、火をおこし、カレーライスを作る。食事の後片付けの後には、キャンプファイヤー。子どもたちは、火の勢いに圧倒されていたが、火の偉大さやありがたさを感じ取っていた。

4 終わりに

清水東地区は、10 町内で構成されている。しかし、小学校区が何度も変更されたことがあり、町内間の交流が希薄であった。平成 22 年 4 月に清水東公民館が現在の地に新築移転したときから、公民館を拠点として、町内間の連携や、住民同士の交流を図る活動に取り組んできた。「清水東地区・清水東小学校合同体育大会」、「自治会対抗ソフトボール大会」等のスポーツ大会、地区内を美しくするための「花壇コンクール」等を全町内参加を原則に行っている。まだ、7 年しか経過していないが、いろいろな行事や講座への住民の参加が多くなっていることを実感している。今後も、地区の美しい自然環境、史跡、伝統を大切にしながら、積極的に住民同士の交流を進めていく活動に取り組んでいきたい。

「こいのぼりウォーク」は、清水東地区の美しい風景を映像ではなく、五感で感じた風景として、子どもたちの心に記憶してほしいという願いから行われているということです。ゆっくり歩くことで、地区内のすばらしさの再発見につながっているものと思います。